

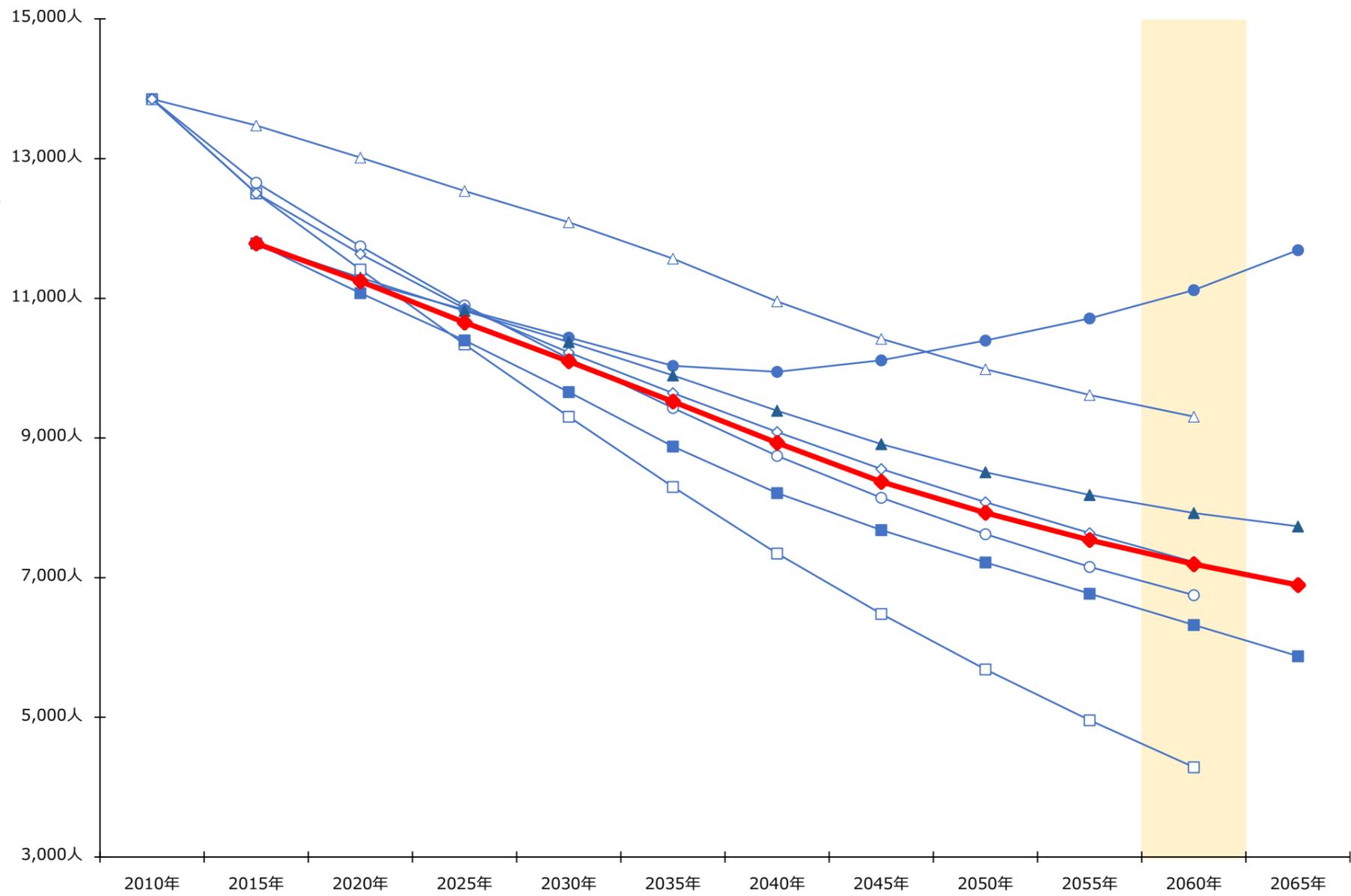
		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	
		平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年	令和37年	令和42年	令和47年	
H28 :	パターン1 (社人研推計準拠)	□	13,853	12,502	11,413	10,342	9,304	8,299	7,348	6,482	5,686	4,957	4,286	
	シミュレーション1 (①+出生率上昇)	○	13,853	12,655	11,746	10,899	10,141	9,431	8,744	8,143	7,623	7,155	6,750	
	シミュレーション2 (シミュレーション1 + 移動均衡)	△	13,853	13,474	13,016	12,538	12,089	11,568	10,957	10,420	9,983	9,617	9,306	
	町独自推計	◇	13,853	12,503	11,635	10,855	10,224	9,644	9,085	8,556	8,081	7,639	7,224	
今回 :	パターン1 (社人研推計準拠)	■		11,786	11,074	10,397	9,658	8,879	8,211	7,682	7,218	6,772	6,322	5,877
	シミュレーション1 (①+出生率上昇)	●		11,786	11,253	10,838	10,438	10,032	9,947	10,113	10,396	10,712	11,117	11,689
	シミュレーション2 (シミュレーション1 + 移動均衡)	▲		11,786	11,297	10,819	10,373	9,895	9,390	8,912	8,509	8,185	7,924	7,735
	町独自推計	◆		11,786	11,243	10,653	10,098	9,522	8,930	8,373	7,929	7,540	7,193	6,894

■推計方法
内閣府配布による、「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート(令和元年6月版)」を用いたコホート要因法

■推計元データ
2015年(平成27年)国勢調査実績を元に推計しています。

■仮定値の設定
「今回:町独自推計」は以下の通り仮定しています。

- *出生
 - ・2020年の合計特殊出生率を1.2
 - ・以降、5年ごとに0.1上昇させて
 - ・2050年に1.8に到達、その後は維持
- *社会移動
 - ・2020年からの10年間は、移動均衡(移動0)
 - ・2030年からの20年間は、5年間で前5年間の純移動率0.5%増(5年で50人程度)
 - ・2050年からは、5年間で前5年間の純移動率1%増を維持(5年で70~80人程度)



□ H28: パターン1 (社人研推計準拠) ○ H28: シミュレーション1 (①+出生率上昇) △ H28: シミュレーション2 (シミュレーション1 + 移動均衡) ◇ H28: 町独自推計
 ■ 今回: パターン1 (社人研推計準拠) ● 今回: シミュレーション1 (①+出生率上昇) ▲ 今回: シミュレーション2 (シミュレーション1 + 移動均衡) ◆ 今回: 町独自推計